

文化祭で新たな伝説が創られる

秋とは思えないほど、気温が上がる中で岩美中学校文化祭が開催されました。スローガンは「一笑懸命～創り出そう新たな伝説～」に設定され、生徒たちは新しい伝説を創り出そうと頑張っていました。

英語弁論では岩美町の素晴らしさを英語で表現してくれました。日本語弁論では、手話を交えながら弁論をすすめてくれました。いずれも会場をうならせるような内容でした。地域の方、来賓の方がいずれも感動しておられました。

そして、合唱コンクール。1年生から始まった合唱だったのですが、1年生は元気の良い、初々しい姿を見せてくれました。2年生は、1年生の合唱からは一段ステップアップした合唱を披露してくれました。声量やハーモニーに気をつけていたことなど、1曲を聴き終わるまでにさまざまな思いを感じることができました。3年生は、圧巻の合唱。さすが3年生と思わせるもので、他学年の追従を許さない合唱でした。

「これまでの合唱コンクールの中でベスト3に入る」と、長年文化祭を参観しておられる地域の方が言っておられました。文化祭が明けてからも、会う人が必ず「すばらしい合唱だった」「感動した」と言われます。私も正直、審査の手がとまり、鳥肌が立っていました。それぐらいインパクトのある合唱でした。

今年復活した全校合唱も素晴らしかったです。平成20年以前から、当時の岩美中学校は修学旅行でステパノ学園（神奈川県大磯市）を訪れていました。ステパノ学園は澤田美喜さんの生き方に学ぶ上で、大切な見学地でした。ステパノ学園の卒業生の方に、澤田美喜さんの人間像に迫るためにお話を聞かせてもらっていました。あるとき、音楽の先生がお礼に「ふるさと」の合唱をプレゼントすることで、お礼をしようとアイデアを出されました。3年生だけで、アカペラでステパノ学園の生徒、先生に聞いてもらったのです。その後、文化祭で全校合唱となり、長い期間受け継がれてきていました。それだけに、全校合唱で披露された「ふるさと」は感動しました。

この文化祭では、生徒たちは表現活動を通して、自分の気持ちや思いを作品として表していました。展示作品においても力作が多く、各教科や部活動における作品、ノートの記録なども含めて、自分自身を表現していました。友達の表現を体いっぱい受け止めて、友達の頑張っているところや、よいところを受け止めてくれたと思います。今後、岩美中の生徒が心豊かに育ってくれることを願っています。



全校合唱「ふるさと」



令和5年度 モザイク壁画